

2019年(令和元年)10月24日(木曜日)(2)

「難聴と認知症」に注意喚起

両輪会、運転者の健康で議論

運輸業界の安全と健康を推進する協議会「両輪会」(代表・NPO法人ヘルスケアネットワークII

ク、タクシーなど関連業界から20人が出席して安全確保への課題などを討議した。

老化の急速な進展と働き方改革などの推進を受けて改めて課題を整理、対応を協議した。

OCHEIS(日本貞子副理事長)は第25回両輪会を10日、大阪府トラック総合会館で開催。トラッ

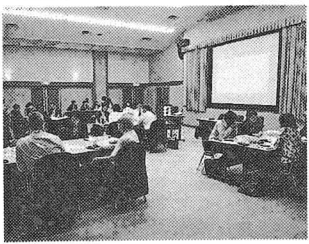
今回のテーマは「運輸業界の高齢化への対応と働き方」で、過去2回同テーマで討議したが、高

齢化の急速な進展と働き方改革などの推進を受けて改めて課題を整理、対応を協議した。

ム」の活用で浮かび上がったドライバーらの健康状態をOCHEISの保健師が説明。特に今回は高齢ドライバーの「聴力」に課題があることを示した。認知症のリスクについても聞きかねない加齢性難聴では、クラクションや救急車のサイレン、エンジン音が聞き取りにくくなるほか、運行前点検でエンジンやブレーキの異音を確認できないなどの問題が指摘される。

聴力での有所見者は、全体に低音より高音に所見があり、その割合は91%に及ぶ。この難聴が認知症と併合しやすくなる

グループディスカッションでは、「IT機器と運転」「健康年齢の指標(ものさし)」「中高年のモチベーションへの対応」などを議論。ドライバーがドライバーや車内カメラで事故分析と対策を進める事業者がいる反面、機器導入に至っていない事業者や、働き方改革での雇用延長が賃金に及ぶ影響などへの対応が整理しきれていない実情が浮かんだ。



グループディスカッションで自社の課題などを話し合った